

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 27 (年2回発行)

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報部会

速報!

市町村合併懇談会

「合併」テーマに熱い議論

大林ホールに二二〇名

去る七月三〇日、三春まちづくり協会主催による「市町村合併問題についての懇談会」が開催されました。当日は猛暑の中、約二二〇名の町民の皆さんにお集まりいただきました。また役場・議会から合併問題の担当者と関係する議員の出席をいただきました。

武田副協会長の開会のことばの後、主催者を代表して幕田協会長からのあいさつがあり、懇談会に入りました。



幕田協会長

はじめに町の橋本総括主幹から次の五項目についての説明がありました。

- 一、市町村合併の国の考え
- 二、国の主な支援策
- 三、福島県の動き
- 四、三春町の取り組み
- 五、地区懇談会

次に佐久間主任主査から市町村合併町民検討資料第四号(五月発行)についての説明があり、質疑の時間になりました。

町民の皆さんから出された意見、質問を紹介します。

■Q1 合併しなかった場合、三春は財政的になりたっていくのか

(尼ヶ谷 Aさん)

橋本総括主幹：合併すれば財政的に大丈夫ということではない。合併してもしなくても交付税(国からの交付金)は減っていくことはまちがいない。いま必要なのは交付税の減った分をどうカバーするか、コストをどう抑えていくかを考えること。今の時点では合併すれば大丈夫とか合併しなればダメとかは断定できない。

橋本助役：今後の財政の見直しについて。歳入は増えない。歳出をいかにして抑えていくかが町のこれから進むべき姿。まず、行政改革。役場では定員を減らしている。三春の財政力指数は〇・三九で、決して財政的に劣ってはいないと思う。

■Q2 合併問題について町民がどのように考えているのか、もっと十分に話し合いをしてから方向を決定してほしい。

(中町 Bさん)

橋本助役：職員数を減らすといっても、専門的な職員、直接町民と接する部門は減らさない。現在でも三春町には専門的職員がかなりいる。職員数の減がサービス低下にはならない。

■Q3 交付税について、一〇年後はどうなるのか

(桜ヶ丘 Cさん)

橋本総括主幹：国からの交付金は、小さい自治体の方が優遇されるようになっていくが、合併した場合、一〇年間は合併前の基準で算定する。その後一気にながらなくなる。五年間は段階的に下げていく。十六年目以降は合併後の算定となる。

■Q4 職員を減らすというが、町としての行政サービスはどうなるのか。国はほんとうに地域住民のことを考えているのか。

(桜ヶ丘 Cさん)

橋本助役：職員数を減らすといっても、専門的な職員、直接町民と接する部門は減らさない。現在でも三春町には専門的職員がかなりいる。職員数の減がサービス低下にはならない。

■Q5 議会議員の定数を減らすと、地域の声が上がらぬのかどうか心配。

(桜ヶ丘 Cさん)

本多副議長：定数減は経費節減にはなるが、定数が減る減らないにかかわらず皆さんの生の声を聞いて、町政に活かす手法をこれから議会でも考えていく。

■Q6 最終的には住民投票になるのか、議会で決めるのか。これからシンポジウムなどを開いていくと思うが、どうなのか。

(桜ヶ丘 Cさん)

三瓶委員長：住民投票については、現段階では話し合いをしていないのでコメントできない。民主主義の根幹にふれる大きな課題なので、これから各地区の懇談会等で出された意見をふまえ、十分検討していきたい。



■Q7 規模が大きくなる町民へのサービスが少なくなる。交付税でもそんなに得するわけでもないようだし、むしろ二万人の規模でやっていった方がよいのではないか。

(新町 Dさん)

■Q8 私は合併する必要はないという考えだ。小さな城下町にふさわしい小さな役場、議会が望ましい。仮に合併しても行政から遠くなるばかりではないのか。町当局、議会も合併の方向には向かっていないのではないか。(八島台 Eさん)

Q7 Q8の関連で、町会議員からそれぞれ市町村合併についての意見が述べられました。紙面の都合で全てを載せることはできませんが、その一部を紹介します。

●三春の歴史、文化、伝統を大事にして、小さくてもキラリと光る三春町でいたい。

●三春にはダムの水利用という大きい財産もある。

●田村郡で合併すれば中心は東に移るのではないかと住民から要望があれば合併協議会を設置して話し合いをすべきである。

●町政の重要な問題については住民投票も考えるべき。

●町民への情報が少なすぎるのではないかと。

●合併の必要性、財政の状況等について住民が理解しているか。



●財政力指数だけでははかれないところもある。

●楽観はしていない。行政をスリム化して対応していきたい。

●自治体への国からのサービスは平等であるべき。

●国からの情報が少なく、正確な答えを出せない。特に合併するとどうなるかがわからない。

●財政問題について、国は合併しないとうるなるということをはっきり言っていない。

●三春町は広いので旧町内だけで判断することはできない。

●福祉・公共事業・教育などが行政のサービスとして充分できている規模であれば合併の必要はない。

●今の三春町はちょうど良い大きさである。

●地方自治法では「住民もその自治体の中で自治を実現するための役割を負う」と規定されている。

●まちづくりに自分は住民としてどんなことができるのか考えることも必要。

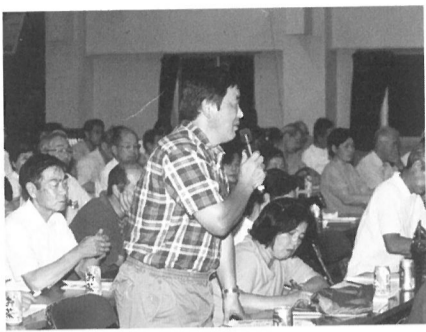
■Q9 各地区の懇談会が終わったというが、どんな話だったかをきかせてほしい (中町 Fさん)

橋本総括主幹：地区によって違うが、財政的に許されるならこのままでいいという意見が多かったように思う。また、どうしても合併しなくてはいけないのかと誤解している方も多かった。岩江地区では郡山との合併についての意見が出されてきた。要田地区では船引との合併の話も出た。

■Q10 検討資料を見てもよく分からない。財政面からだけではなく、環境的な視点からもこの合併問題を考え、合併した場合、しない場合を具体的にシミュレーションして、行政の説明責任を果たしてもらいたい。(八島台 Gさん)

三瓶委員長：各地区で皆様からいただいたご意見を集約して、そのご意見を尊重しながら今後慎重に進めていきたい。

■Q11 合併協議会のことについてもう少し詳しく知りたい。(大町 Hさん)



五十嵐副委員長：合併協議会では三春町単独でできるものではなく、二市町村以上で設置するものということをまず理解してほしい。



■Q12 このような大きな問題については、もっと町民が理解できるような情報を提供し、懇談会を何回も開いて、良い結論を出してほしい (御免町 Iさん)

幕田協理長：資料をもっと提供してもらおうと持つてこようという会をもっと持つていきたい。

■武田副協理長

本日は、町当局、特別委員会、町会議員のみなさん、ありがとうございます。いままでの町の懇談会は、

議員さんは黙って聞いていただけという、何となく消化不良の会が多かったように思います。今日は議員さんひとりひとりに発言していただきました。それは議員さんの話を聞いて我々もこの問題を判断したいと考えたからです。要は、それだけ三春町にとっては大変な問題なのです。若い人たちに胸を張って引き渡してできるように将来悔いのない結論を出したいと思えます。これが始まりです。これから何回でもやるそうです。これから議論を重ねて、決して拙速のないように、三春まちづくり協会も頑張っていきたいと考えます。本日はありがとうございます。

「役場・議会からの出席者」橋本健夫助役、橋本国春総括主幹、佐久間収主任主査、本多一安町議会副議長、三瓶正栄合併問題調査特別委員会委員長、五十嵐信安副委員長、渡辺正恒議員、渡辺渡議員、佐久間茂議員、萬年智議員、村上瑞夫議員、儀同公治議員 (順不同)



アンケート調査の結果

当日会場にてアンケート調査をした報告です。

配付総数一〇五件
回答数八八件 回答率八五%

設 問 内 容	回 答 状 況	
	回答数	率
①懇談会を何で知りましたか？ (複数回答可)	①チラシ (回覧板)	67 51%
	②はがき	25 19%
	③友人から	9 7%
	④新聞	6 5%
	⑤防災無線	15 11%
	⑥その他	9 7%
②市町村合併問題について充分理解できましたか？	①良く理解できた	7 8%
	②まあまあ理解できた	40 46%
	③あまり理解できなかった	32 36%
	④分からなかった	7 8%
	⑤その他	2 2%
	⑥その他	2 2%
③市町村合併問題についてどのようなことを望みますか？ (複数回答可)	①今日のような懇談会の開催	38 23%
	②字ごとの懇談会の開催	33 20%
	③講演会の開催	17 10%
	④シンポジウムの開催	16 9%
	⑤アンケートの実施	20 12%
	⑥住民投票の実施	34 21%
	⑦その他	8 5%
④三春町の合併問題についての考えは？	①合併する方がよい	8 9%
	②合併する必要はない	43 49%
	③分らない	37 42%
	④その他	6 6%
①と答えた方への再質問……どこの市町村と合併するのが良いか	ア. 郡山市と	1 1%
	イ. 田村郡の一部と	1 1%
	ウ. 田村郡の全部と	1 1%
	エ. その他	1 1%

⑤市町村合併についてあなたのご意見をご自由にお書きください。
地方税法改正については総務省でいっていない。財政は合併してもいなくてもいずれ改正されると思う。憲法上でも補正係数を無くす訳にもいかず、将来的には、合併しないほうが良いと思います。財政的に可能であれば、住民自治が隔々に行き渡るような行政を期待して三春町は独自運営が可能だと思います。岩江地区の動向が力ギとなる。国のアメに注意。

合併しなかった場合について、国の指針がはっきりしない段階で決定することはおかしい。ちいさな自治体でも福祉関係など充実しているところもある。三春町は財政的にどうなのかはよくわからないが、もし合併しなくともなんとかなりそうならば、この際、今までの慣習にとらわれないユニークな町として位置づけされる自治体でありたい。いろいろ問題があり考えはまとまらない。しかし、町民を主体に考えれば、「こまわりのきく行政」であって欲しいので、合併しないほうがよいのではと思うのです。

三春町の歴史と伝統を守りながら合併するようにすれば良い。三春町と船引町は財政力指数が似ている。大型店も沢山あり生活上の支障はありません。問題の投げ方が高度すぎるとか、分野ごとに話し合うとか、身近な問題から話し合っていたら良かったと思います。

合併することによって「財政基盤の強化と行政の効率化」を計るという国の考え方のようですが、合併して一過性の国の支援を受けていくのがそれになるのか？疑問です。地方分権といながら合併を促進することで、かえって国の管理化がすすんでいくような心配があるように思います。もう少しいろいろな角度から話を聞き慎重に判断すべきだと思います。※この他にも多数の貴重なご意見をありがとうございます。

人口四万人を超す市となる。経済圏として考えた場合、あるいは地域性から郡山と田村郡に町内を分けて合併すべきと考える。財政的にはいざ現在そのまま存在していかないとされる。何故なら四十年〜五十年の間にまた合併の問題が上がつてくると思われる。それを考えれば、そう急ぐこともないが、遅れることも良くないと思う。一般町民の意識を高める方策を充分考えるべきである。

編集後記

今回の「市町村合併地区懇談会」で最も多く指摘されたことは、判断材料が充分でない、つまり分かりやすい情報や資料が少ないということでした。

町民一人ひとりに直接影響する重大な問題にもかかわらず、出席者数が地区世帯数の5%程度にとどまったことは、単に、関心が薄いというより、分かりやすい適切な情報が提供されていないため、合併問題の重要性が良く理解されていないからとも考えられます。

市町村合併の是非はともかく、地域のことは地域が主体的に決めるといふ地方自治の基本を考えれば、行政・議会はもとより、住民一人ひとりが情報を共有し、積極的に参加できる環境づくりが如何に大切であるか、広報を担う当部会としても役割の重要性を再認識させられたところです。(湊)

三春まちづくり協会
新三役紹介

- 協会長 幕田 勝寿
- 副協会長 武田 英男
- 副協会長 浮内 彰

コミュニティだより
「三春わが街」第二十七号

発行日 平成十四年八月十五日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広 報 部 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八